

事業名	リハビリテーション推進事業費			財務コード	199203
細事業名	リハビリテーション週間事業費				
担当部課室	福祉保健部	部	健康長寿推進課	認知症・地域支援担当 (内線)	3113

調書番号	50
------	----

I 事業の概要

実施期間	始期 H3 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
目的	だれ(何)を対象に 県民、県下の高等学校在生徒及び 県内のリハビリテーション専門職	その対象をどのような状態にして 県民、高校生がリハビリテーションに対する 知識と理解を深める。	結果、何に結びつけるのか ・リハビリテーションの概念、健康維持や介 護予防の普及啓発 ・リハビリテーション職の増加
	内容 ①リハビリテーションのつどい 講演会、リハビリテーション専門職による相談会、リハビリテーション養成学校による進路相談 ②高校生一日リハビリテーション体験 県下の高校生の希望者を各県内の病院へ派遣しリハビリテーションの理解を深め、進路に役立てる		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
活動指標	事業実施(上記①+②)	目標	2	2	2	2	2	2
		実績(見込)	2	2	2	2	2	
		達成率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		達成区分	b	b	b	b	b	b
成果指標	参加人数(上記①+②)	目標	350	350	350	350	350	350
		実績(見込)	339	478.0	361.0	371.0	201.0	350.0
		達成率	73.3	136.0	103.0	106.0	57.4	100.0
		達成区分	b	b	b	b	c	b
決算(予算) 単位:千円		1,050	649	563	542	538	694	683

III 事業の評価(平成28年度の業績評価)

活動指標	b	評価	高校生一日リハビリテーション体験では、104名の参加者があり、実施後の感想文からは、「リハビリテーションを実際に見ることができ、有意義であった」、「進学の参考になった」等の言葉があり、リハビリテーションの理解の促進や進学の参考になっている。
成果指標	c		

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(平成30年度に向けた改善等の考え方)

県関与の 必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input checked="" type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他 ()		
有効性 (成果向上)	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	今以上に県リハビリテーション支援センターや各広域支援センターを連携を図ることでリハビリテーションの普及啓発が充実する。		
見直しの 余地	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ()		
その他	説明			
見直しの 必要性	有	リハビリテーションの普及啓発は益々重要である。今後は、各広域支援センターと連携を図ることで、参加者の増加や効果的な普及啓発につなげる。		

V 見直しの方向(平成30年度当初予算等での対応状況)

実施方法の 変更	説明	県リハビリテーション支援センターやリハビリテーション職、高等学校が連携しているイベントは少ない。今後は今以上にリハビリテーション普及啓発を行うとともに、フレイル予防、介護予防加えた内容で、更なる県民への普及啓発を充実する。
-------------	----	---

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。